

# 『第15回 インフラ構造物長寿命化研修会』のご案内

主催

公益財団法人 佐賀県建設技術支援機構

日時

令和6年1月19日（金）13：30～16：30（13:00 受付）

場所

公益財団法人 佐賀県建設技術支援機構 3階研修室  
（佐賀市鍋島町大字森田912番地）

研修項目

橋梁定期点検における点検支援技術

(1) 13：30～15：00

「インフラ構造物の自走式点検ロボットの開発」

佐賀大学 理工学部 教授 伊藤 幸広 氏

インフラ構造物の点検現場においても、作業時間、人員の削減を進め生産性の向上が求められている。また、点検時に新技術を導入することのメリットも多く、最近積極的に採用されるようになってきた。

本講演では現在佐賀大学と企業で共同開発中の2種類のインフラ構造物点検ロボットについて紹介する。一つは小規模断面のトンネルの欠陥検知ロボットであり、もう一つは床版等を自動で打音検査するロボットである。いずれのロボットも自走しプログラムによって自動的に点検を行うロボットである。

(2) 15：00～15：45

「橋梁点検における新技術の適用事例」

株式会社コスモエンジニアリング 浦 耕司 氏

インフラ施設は、安定的な維持管理を行うため、人材や費用の確保が課題である。

道路橋においては、2019年2月「道路橋定期点検要領」の改定により、近接目視と同等と認められた点検手法の採用が認められることとなった。近接目視と同等な手法として点検支援技術の活用が可能となり、工期短縮や費用削減、デジタル技術活用による品質向上などが期待できる。「点検支援技術性能カタログ」に記載された技術より、当社において活用した技術や選定における課題などを事例を踏まえ紹介する。

(3) 15：45～16：30

「点検業務における遠隔臨場の活用」

シマウチエンジニアリング株式会社 中川 和樹 氏

移動時間や待機時間の削減が期待できる遠隔臨場は、建設業界の働き方改革の一環として国土交通省により令和2年度から推進された。遠隔臨場は、タブレット端末やウェアラブルカメラなどによる映像と音声の双方向通信を使用して立会を行うもので、現地の技術者が判断に迷う場合に遠隔地の発注者や熟練技能者に判断を仰ぐことが可能である。点検箇所が高所や狭あいなどの理由で立入り人数が制限される場合でも技術者全員が一様にその場に行かなくても点検を行える。

今回講演では、遠隔臨場の仕様や特徴と弊社が開発した遠隔臨場検査監督システム（アテネット）について紹介する。

対象

自治体職員、建設コンサルタント、建設業者

定員

60名

参加費

1名につき 4,000円 【登録番号 T8300005000148】  
（消費税10%対象 3,637円 消費税額 363円）

申込方法

メール（[gkenshu@sagacat.or.jp](mailto:gkenshu@sagacat.or.jp)）にて①研修会名、②氏名、③所属、④TEL、⑤受講証明書（CPDS・CPD・不要）のいずれかを明記のうえお申し込みください。1社につき3名まで受け付けます。参加費の支払方法は申込受付後、メールにてご連絡します。

申込期限

令和6年1月12日（金）17：00（定員になり次第締め切ります）

その他

(1) 駐車場は、クレオパーク鍋島内北東にある外部駐車場をご利用ください。（別紙参照）  
(2) 喫煙は所定の場所をお願いします。

問合せ先

公益財団法人佐賀県建設技術支援機構 技術部 企画情報課

TEL 0952-97-5596 FAX 0952-97-5603

※（一社）全国土木施工管理技士会連合会 CPDS（形態コード101-1、プログラム番号852837、3ユニット）、  
（一社）建設コンサルタンツ協会 CPD（プログラム番号202311240002、CPD単位3）に認定されています。